|  |
| --- |
| ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。 |

【技術・家庭科（技術分野または家庭分野）学習指導案様式】

　題材の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

第〇学年〇組　技術・家庭科（技術分野または家庭分野）学習指導案

指導者　＊＊　＊＊

１　題材名　　　例「環境に優しい野菜作りにチャレンジ！」　Ｂ生物育成の技術

１　題材名　　　例「自立した消費者となるために」　Ｃ消費生活・環境

高等学校においては、「題材」が「単元」となります。以下、同じ。

２　題材の目標

（１）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　（知識及び技能）

（２）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊（思考力、判断力、表現力等）

（３）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　　（学びに向かう力、人間性等）

題材の目標を基に、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成します。

題材全体ではなく、「５　題材の指導計画」の表中に関するものを記載します。

３　題材の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ |

４　題材について

（１）題材観

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）において求められている資質・能力と設定した題材との関連について記述します。また、題材のねらいや他学年との関連を入れるなど、題材構想の意図について記述することが大切です。

（２）生徒観

題材につながるこれまでの学び、小テストや技能テストなどの実態調査（できるだけ数値化したもの）から課題を明らかにします。そして、課題と関連する育成すべき資質・能力とは何かを明らかにします。

（３）指導観

生徒観に書かれた課題を受け、題材のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します。また、講じる手立ては、どの学習場面やどのような方法で行い、目指す生徒の姿になると考えられるのかについて記述することが大切です。（カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れていけると、なおよいでしょう）。

５　題材の指導計画（12時間扱い）【記入例：中学校家庭分野】

本時に関わる指導のまとまりのみ表にして、前後の指導内容が分かるようにします。

　第１次・・・自分や家族の消費生活（５時間）

　第２次・・・消費者としての責任ある消費行動（５時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習内容・活動 | 知 | 思 | 態 | 評価及び評価方法等  ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面 |
| ２ | ６ | 自立した消費者となるためには、どのような消費行動を取ればよいだろうか  「題材を貫く問い」を記述します。   |  | | --- | | 学習課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。（※１）  観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。   |  | | --- | | まとめ | | ○ | 。 | 〇 | 態：（学習活動に）向かっていない生徒を見取り､(活動に向かうための手立て）などの指導を行う。　　　　【観察】  知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる｡　 　【ワークシート】  本時は強調して詳しく記述します。また、指導上の留意点も記述します。（※２） |
| ７  本時 | **目標：消費者被害の事例を通して、消費者の基本的な権利と責任について理解する。**  １　本時の学習課題を確認する。   |  | | --- | | 学習課題  　通学用の自転車購入の事例には、どのような消費者の権利と責任が関わっているのだろうか。 |   ２　消費者被害にあった事例について問題点をデジタルホワイトボードの付せん機能で表し、発表する。  　＜予想される生徒の反応＞  　・ブレーキがききにくい。  　・返品ができない。  ３　事例の問題点に関わる｢消費者の権利」･｢消費者の責任｣を考え、学習カードに記録する。  ＜予想される生徒の反応＞  ・ブレーキのききにくさは、安全が確保される権利にあてはまる。  ・返品ができないのは、被害が救済される権利にあてはまる。  ・事故を起こす可能性があることを販売業者に伝えるのは、主張し行動する責任にあてはまる。  ４　本時のまとめを記入する。   |  | | --- | | まとめ（例）  消費者の｢安全が確保される権利｣と､｢主張し行動する責任｣が関わっている。 |   ５　本時までを振り返り、分かったことを自分の言葉でまとめる。  　＜期待される記述の例＞  　・消費者の権利と責任は、消費者被害の拡大を防ぐことにつながる。 | 目標を達成するための学習課題を設定します。  ◎  学習活動と評価が一致するようにします。 | ○ | 本時の目標をゴシック体で記述します。 | ・前時の学習を振り返り、消費者の八つの権利と五つの責任について確認する。  ・購入した自転車についての情報を確認する。  思：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では思考・判断・表現しているとよいのか）について見取り、できていない生徒には（できるようにするための手立て）を講じる｡　　　 【観察】  ・一つの問題点に関わる消費者の権利や責任は一つではなく、複数ある場合もあることに気付くようにする。  ・～する。  安全上の配慮事項があれば示します。  知：～について理解している。  【学習カード】  ・消費者の権利と責任は、消費者被害の拡大を防ぐことにも関わっていることに気付くようにする。 |
| ８ | |  | | --- | | 学習課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  正対します。  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | まとめ | | 〇  ◎ |  |  | まとめと振り返りは違いますので注意しましょう。  知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる｡　　 【ワークシート】  知：～できる。 【観察・ワークシート】 |
| ９  10 | |  | | --- | | 学習課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | まとめ |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ |  | ◎ | ◎ | 思：～している。　　　【ワークシート】  態：～しようとしている。  【ワークシート、観察】  題材を通して何を学んだか、生徒が振り返る時間を設けます。 |

　第３次・・・自立した消費者になるために（２時間）

**※１**　指導計画は、題材のまとまりを見通し作成します。したがって、学習内容・活動の欄には、その時間に育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。

**※２**　授業公開等を行う場合は、「本時」について、学習内容・活動を詳しく示したり、評価及び評価方法等の欄に配慮事項を加えたりするとよいでしょう。